



11匹のねこ

11匹のねこシリーズ

馬場 のぼる 著

こぐま社 1967年 1260円

1冊 27×19cm

おなかをすかせた11匹のねこが、おなかをいっぱいさせるために、じいさんねこに教えられたおおきなさかなを捕まえようと、遠くのみずうみまで出かけました。そこでおおきなさかなをみつけたはまだはよかったのですが、なかなか捕まえることができません。ある晩眠っているさかなをみつけた11匹のねこは、ついにさかなをつかまえたのですが、家に着くまで絶対に食べないという約束は、夜の間にすっかり破られたのでした。

ストーリーに負けないユーモラスな絵が楽しさを膨らませます。最後、夜から朝への展開は絵本のページめくりの楽しさを最大限に利用しているといえるでしょう。



10人のゆかいなひっこし

安野 光雅 作

童話屋 1981年 1523円

48ページ 27×22cm

10人の子どもたちが左の家から右の家へ1人ずつ引越しをする字のない絵本です。ただ、子どもたちは片方のページにしか描かれていません。左の家に8人の子どもがいる時、右の家には何人いますか？もう、おわかりですよ？この本はこのように数学的に面白いだけでなく、よく見ると家具や小物も少しずつ引越しをしています。何が引越しをしたか探すのも楽しいでしょう。また、1人1人の子どもには個性がありますから、どんな子どもなのか名前をつけたり想像したりしても素敵ですね。引越しが終わったら、今度は最後のページからめくってみてください。また、楽しい引越しのはじまりです。

